

# ご寄付のお願い

わたしたち朝日新聞厚生文化事業団は、1923年9月の関東大震災の被災者救援活動をきっかけに設立された、非営利の社会福祉事業の実践組織です。

「だれもが支え合い、和やかに暮らせる社会を実現する」ことをミッションとして、みなさまの「なんとかしたい」という思いを、具体的な行動に変えて、困難な立場の方々に届ける活動をしています。

これからも引き続きご協力をお願いいたします。

## ご寄付の使いみち



困難な状況にある子どもたちの進学や学びを支援する奨学金「応援金」を届けます



被災された方への緊急支援として役立てます



さまざまな「当事者のつどい」でつながりをつくります

この他にも、障がいのある人や認知症の人を支える取り組みなど、幅広い活動をしています。

## ご寄付の方法

### クレジットカード

事業団ホームページからご寄付の手続きができます。



### 銀行振り込み

お振り込み前に、こちらからご寄付の登録をお願いします。



### リサイクル募金

本、DVD（本はISBN書籍コードがあるものが対象）、ブランド品、貴金属、切手・ハガキ、骨董・絵画等をお送りいただき、査定金額の全額を事業団にご寄付できる仕組みです。集荷・査定換金・募金送金は「きしゃぼん」（運営：嵯峨野株式会社）が実施。集荷申し込み、取扱品に関する問い合わせは、電話0120-29-7000〈9:00-18:00〉まで。



ホームページ [kishapon.com/asahi-welfare/](http://kishapon.com/asahi-welfare/)



1,000円以上のご寄付で、お住まいの地域の朝日新聞地域面にお名前を掲載することができます（ご希望の方のみ）。

### 〈クレジットカードでのご寄付について〉

12月中にクレジットカードでのご寄付をいただいた場合、領収書を発行する時期が翌年度の1月末頃となります。

クレジットカードでのご寄付の場合、寄付のお申し込みをいただいた、翌月末に決済代行会社から当事業団へ入金されます。

そのため、12月中に手続きしていただいた場合、翌年の1月末に当事業団へ入金され、領収書の発行は翌年度の1月末頃となります。

## 朝日の社会福祉 2025

2025年12月発行

発行者：社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団

住所：東京都中央区築地5-3-2

電話：03-5540-7446

デザイン・イラスト：かえるぐみ

このダイレクトメールは、過去にご寄付をくださった方などへお送りしています。送付停止や住所変更、同一ご住所で1通のご案内をご希望の方は、お手数ですが下記専用ダイヤルへご連絡ください。ホームページの専用フォーム（右のQRコード参照）からもお手続きいただけます。

TEL 0120-600-668



# 朝日の 社会福祉 2025

## 特集 学びをつなぎ その先の未来へ

### 今号の内容

- ▶「まなび応援金」から「未来まなび応援金」へ
- ▶地域こどもつなぐ応援金スタート
- ▶未来への不安 乗り越えた経験をシェア
- ▶能登半島地震 被災地支援



生まれた環境や自然の猛威に左右されず、すべての子ども・若者が将来に希望を持ち、自分らしく未来を拓けるように。そして、また次の世代に思いを引き継いでいく。その循環とアクションを広げるため、私たちは災害支援を含めた活動を続けています。

活動の核となるのは「つながり」です。

社会的養護を経験した若者たちが設立した「ぴあ応援団」。後輩たちの力になろうとメンバーが企画・運営したセミナーに参加した中学生は「みんなに自分の夢の話をして、少しその夢に近づいた気がした」と語りました。「ぴあ（仲間）」との時間は、明日への確かな力となります。

また、2026年2月に受け付けを開始する給付型奨学金「地域こどもつなぐ応援金」では、経済的な支えに加え、孤立しがちな家庭・子どもの、地域や支援機関とのつながりも重視しています。

そして、ご支援くださる皆さまとのつながりが、子どもや若者にとって「自分は一人じゃない」という大きな勇気になっています。皆さまの温かい思いを、最も必要とされる場所へ届けてまいります。引き続きのご支援を心よりお願い申し上げます。

# 明日を、未来を、思い描いてもらえるように

## 「まなび応援金」から 「未来まなび応援金」へ



当事業団が実施する返済不要の奨学金事業の一つ「まなび応援金」は2020年に開始。自立援助ホームや子どもシェルターで暮らす子どもたちに「高校に行くことを当たり前の選択肢に」との思いでスタートしました。2025年度から名称を「まなび応援金」から「未来まなび応援金」に変え、卒業後の将来までを見すえた努力にこたえられる形に、制度の一部をリニューアルしました。

皆さまからのご支援をいただき、制度開始の20年度から24年度までの間に、まなび応援金として延べ2404人に2億5969万2137円をお届けしてきました。

対象とするのは、自立援助ホームや子どもシェルターで現在暮らしている、またはかつて利用していた15歳～29歳までの人です。家庭内での虐待やネグレクト、死別など過酷な経験を経て支援によりやくつながった時には、義務教育すら満足に通えていなかった人もいます。ホームでは生活を自分で支えなければならないため仕事に追われ、勉強は後回しになりがちです。

### ■卒業後のその先を考える

これまでは通学した、資格を取得したなど、頑張ったことの「結果」をもとに申し込んでいただき、後から奨学金をおくっていました。

事業開始から5年目を迎え、高校を選択肢にする人も増えてきました。そこで「未来まなび応援金」では、就学自体を目的とすることから、将来を視野に入れた「学ぶ意欲」にこたえるための見直しを行いました。それに伴い、支給を前払い方式に変更しました。

申し込みは半年単位。高校卒業後やその先に描いた夢や希望を現実にするために、むこう半年間の自分がやるべ

きこと、必要な学びは何なのかを考え、そのための資金(上限6万円)を自分で計算して、その理由を書いた申込書を提出してもらいます。

年度の前半分は4月、後半分は10月に募集し、運営委員会による審査後にすぐ支給し、学びの充実に役立てていただきます。

### ■「まなび」の意味するもの

10月に「未来まなび応援金」として初の募集を行い、10月～2026年3月までを対象にした支給に対して297件の申し込みがありました。

遠方の大学のオープンキャンパスに参加するための旅費、外国語学習のアプリを存分に使うための携帯電話の通信費、運動部の仲間とそろえる練習用のTシャツ、軽音楽部で使うギターの弦の交換…

申込書からは、自分の未来に、なりたい姿について、いま持てる力で精いっぱい向きあっていることが感じられます。

高校卒業後の進学や、「勉強」に直接結びつかない物などについては、贅沢と捉えられ我慢すべきでは、という声が聞こえてきてもおかしくありません。しかし、苦しい日々を切り抜けてきた子どもたちが、明日のこと、ましてや数年先のことを思い描けるようになったのは、大きなことです。

食べるもの、着るもの、寝るところが当たり前であり、心身が脅かされる心配がなくなって初めて、自分のこれからを考えられるようになると、見守ってきた施設の関係者は言います。

一人一人が厳しい生活の中で見つけた夢や希望が花開き、尊厳を取り戻して人生を歩んで行けるようになることを願い、私たちはこの事業を進めていきます。

## 申し込みから



レポート課題を期限内に提出し、毎週行われるスクーリングに出席し、高校卒業をすることが目標です。そのために、休むことがないよう体調管理を行うことを心がけています。卒業後は就職を目指しています。沖縄は就職時に運転免許が必須の場合が多いので、高校在学中に運転免許取得を目指したいです。

(高校3年生)



昨夏にシェルターを退所しグループホームへ入居。症状が安定しひとり暮らしが可能になり、高校へも編入学を果たす等、逆境を乗り越えた本人の努力は評価に値すると思います。笑顔で話す本人を応援したいと思います。応援金を利用できれば免許取得へ近づくことができます。何卒宜しくお願いします。

(子どもシェルターホーム長)



これからの半年間は、英検2級の取得を目指して勉強を続け、進学に向けた資格にも挑戦します。軽音部の発表に向けて、日々練習を重ね、演奏技術を高めたいです。また生徒会やボランティア活動に積極的に参加し、責任感と協調性を養います。さらに来年1月のニュージーランド留学では、海外での学びを通して視野を広げたいです。

(高校2年生)

目標のためにファミリーレストランのバイトを頑張りながら、家でも料理をしたいと思っています。在籍している学校には料理を学べる授業があるので、それに積極的に参加して料理の腕を上げたいと思っています。また、一緒に住んでいる施設の友だちに食べてもらって、感想を聞き料理の幅を広げていきたいです。

(高校2年生)

高校を卒業し、料理の学校に進みたいと考えているため、普段から、楽しそうに料理をしています。夢を叶えられるように、勉強をしっかり行い、高校を卒業できるように、使途でもあるスクーリングにも参加し、様々な経験をしてもらいたいです。

(自立援助ホーム長)

将来に繋がることに一生懸命取り組んでいますが、その都度お金がかかり貯金を切り崩しています。施設にいたから金銭的制限があっても全力で取り組めないとは感じてほしくありませんが、施設からお金を支援することはできないため、ご支援いただければ幸いです。

(自立援助ホーム長)



# 地域こどもつなぐ応援金スタート

応援金が生む「つながり」に期待

孤立する家庭の子どもに専門機関のサポートを

全国児童家庭支援センター協議会  
副会長 武田麻里さん

朝日新聞厚生文化事業団は2025年度、困難を抱えつつ地域で暮らす子どもたちを支えようと、「地域こどもつなぐ応援金」を新設しました。26年2月から募集を開始。1人あたり年間10万円（卒業時には祝い金2万円）を給付予定で、学納金や学校生活などに充てていただくつもりです。創設や運営にあたり、ご協力いただいている全国児童家庭支援センター協議会の武田麻里副会長に、応援金に期待されることをうかがいました。

(インタビュー：河井健)



社会的養護のもとで暮らす子どもへの各種奨学金の充実などにより、「経済的な理由だけで施設や里親家庭の子どもたちが進学できないことはなくなってきた」とされています。一方で、地域には支援が届かず困窮している子どもたちもいる。そのような現状を踏まえ、つなぐ応援金が設けられました。

そうですね。確かに社会的養護のもとで暮らす子どもを対象とした奨学金の数は増えました。ただ、奨学金も含めた福祉の制度は申請主義が原則。つまり「どんな支援があるか」ということを当事者が知り、自ら申し出ないと受けられません。施設や里親家庭などつながっていれば、貧困や虐待といった困難を抱えた子どもでも情報を得やすい。一方、こうした課題は外部からは見えにくく、地域で孤立し、必要な情報が届いていない家庭もあります。応援金には、金銭面に加え、そうした家庭の子どもたちが、支援機関とつながり続けるきっかけになることを期待しています。

応援金は給付対象として「継続支援している専門機関が推薦した子ども」などとしています。武田さんが運営されている「和歌山児童家庭支援センターきずな」もその一つ。児童福祉法に基づき、困難を抱えた子どもや家庭を

支える機関です。現場から見たつながりの重要性について教えてください。

きずなが関わったひとり親と幼い2人の子どもの貧困世帯を例に挙げます。親自身もネグレクト（育児放棄）を受けて育ち、子どもに暴力を振るっていました。やがて2人が成長すると、今度は子が親に暴力を振るうように。親子とも知的・精神面で福祉や医療の支えが必要でした。地域の苦情で発見され、つながりを持たずきずなは、児童相談所や自治体、医療機関などとも連携し、長期的に支援。現在、上の子は就労継続支援A型事業所で働きながら、グループホームで落ち着いて暮らしています。下の子も来春に通信制高校を卒業できる見込みです。

きずなどのつながりをきっかけに、さまざまな専門機関も関わるようになったことで、子どもにとっては就労や進学、自立への道が開けたのですね。

はい。児童家庭支援センターは当事者とほかの機関をつなぐコーディネーターもしています。多くのつながりがあれば、万どこかと切れてしまっても支えることができる。つながり続け、より困難な状況に陥る前にサポートすることが重要だと考えています。



様々な困難がありながら地域で暮らす子どもの高校就学を支援する給付型奨学金です。

子どもと家族、地域、社会的養育の関係機関等がつながり・連携して子ども自身が未来を拓くことを支えることを目的としています。

**用途** 学納金をはじめ学校生活、部活動、こども本人のその他の活動

**内容** 年間10万円（前後期各5万円）、卒業祝い金2万円

**対象** 社会的養護を経験し家庭に戻った、または、地域で家族と暮らし、社会的養育を特に必要とする20歳未満の高校生で、支援機関から継続的な支援を受け推薦をされたこども。



詳しくはWebサイトでご覧いただけます。



応援金は困難を抱えた子どもたちの大きな支えになりそうです。

給付対象世代の高校生は、普通、自分のためにアルバイトをしますよね。でも、そうした子どもたちの目的は家計。お金がなくて修学旅行に行けない子もいます。同世代の「当たり前」が経験できない。周囲と見える景色が違ってしまふ。それ

は劣等感や「頑張っても報われない」という思いを生み、自尊心をくじき、将来の夢を持ちにくくさせることにつながりかねません。困難を抱え、金銭的な支援やつながりを必要としている子どもたちがたくさんいると知り、力を貸していただきたい、と思っています。



10代、20代の「学びたい」にみなさんのエールを

「こども応援金」クラウドファンディング  
目標達成のご報告とお礼



2025年9月16日～10月31日に実施した「こども応援金」の資金を募るクラウドファンディングは、当初目標金額の700万円、さらにネクストゴールの800万円を達成し、最終的に367人から813万8000円のご支援を頂戴しました。また期間中には、当事業団へ直接ご寄付をくださった方も多くおられました。心より感謝申し上げます。

見えない未来の  
でもあきらめたくないの



(ご支援は、READYFOR掲載のための手数料を除き、全額を返済不要の奨学金「こども応援金」に役立てます)



